※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. B-49

【様式２】

部門名：働き方改革実践部門　**エントリー名：**東近江市立八日市南小学校　森岡摂子　平成 30 年度第３回中堅教員研修

活動名：　ミニ研修 「ミナミカエル」
～「個業ではなく協業」を意識して～

【解決すべき課題】　**質を落とさず仕事量（仕事時間）を減らすには？**

昨年度から市内で統一して働き方改革が進む中、２０時に学校閉校、超勤４５時間/月以下という具体的な勤務時間の目標値が出された。時短が迫られる中で、職員の中には、業務量の多さや人員が増えないことへの不満や多忙感、校務分掌の不公平感が強く感じられようになった。業務を減らすことに終始することは、教育の質の低下につながりかねないとも危惧される。またベテラン教員の大量退職に伴い、教育の質の低下や組織の機能低下などが心配される中、人材育成は急務の課題である。指導要領が改訂される今、新しい時代に合わせた魅力ある教育現場への転換を視野に入れ、本校ならではの働き方改革を推し進めていきたい。

【目標・方針】　**①仕事の効率化・仕事時間の確保　②教育の質の向上**

働き方改革の真の目的が「教育の質の向上」にあることを念頭に置き、教職員一人ひとりが「現状の何が課題であるか」「どうしたらいいか」を考え、これからの新しい時代にあった魅力ある教育現場をつくっていこうとする意欲を持ち、組織的に改革に向かう枠組みをつくる。

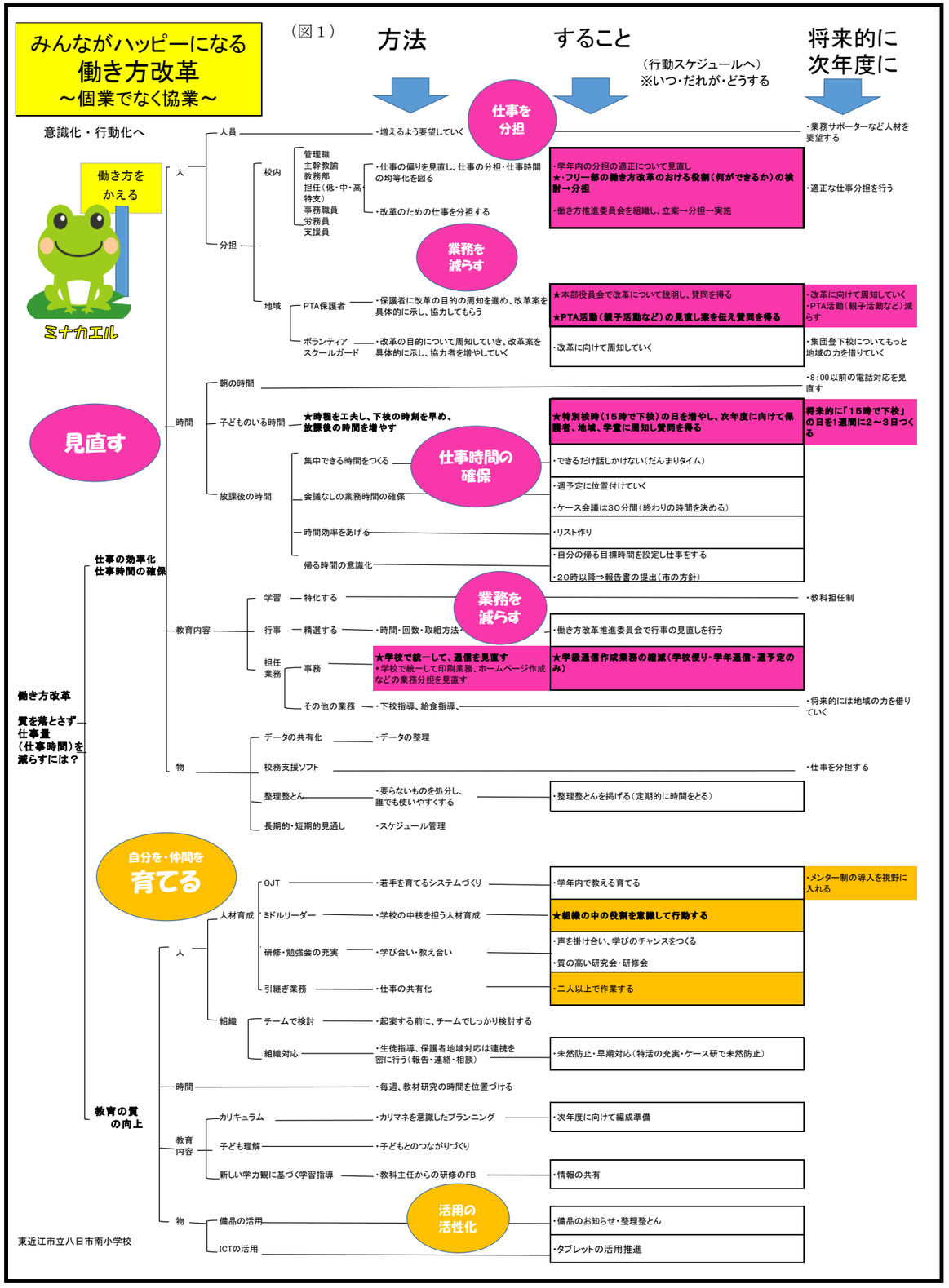
当機構の研修での学びを活かし、自校の経営の内部要因を見据えたプランニングを行った。
本校の強みとして挙げられるのは、教師の力量の高さ、熱心さである。弱みとしては、連日ケース会議等子ども理解や子ども支援に費やす時間が非常に高く、業務時間が定時をはるかに超えている実態がある。家庭環境が複雑で課題を抱える児童が多い中、個別の対応や緊急を要する対応が後を絶たず、子どもを中心に据えた教育を考えると単純に削減できない部分も多い。

1　職員が一致団結して働き方を見直し、本来のねらいである「質の向上」を念頭においた改革が主体的に協働的に行えるよう意識の統制を図る。
2　具体的なプランニングを行い、実行性の見通しをつけていく。

【活動内容】
①ミニ研修を実施し、働き方の課題及び、働き方改革のアイディアを出しい方針を決める。（写真１）
②課題解決のための方法をロジックツリーに整理。（図 1）③働き方改革検討委員会で行動化の見通しをもつ。

【活動の成果】
1　全職員で話し合う中で、働き方改革の意義と自校の課題の自覚化ができ、方向性を職員間で共有できた。
2　様々なアイディアが出され、大胆な発想も視野に入れた改革への意欲が膨らんだ。
3　「個業ではなく協業」というキーワードが生まれ、立場を超えて助け合う必要性を再確認できた。
4　教育の質を高めるために OJT や学び合いの重要性が浮かんできたことは意義深い。
5　学校として検討委員会を中心に組織的に検討の場をもち、行動化につながった。

（写真１）

【アピールポイント（アイディアや工夫）】

・キーワードを意識した「ミニ研修会」を持つことで、教職員の働き方改革への共通理解・共通認識ができ、意識改革が進んだ。
・ロジックツリーを用いることで、改革を推し進めていく上で具体的な対策が浮かび上ってきた。
・具体的にすることを検討し、いつ誰がどうするか行動スケジュールに落とし込むことにより、実行性が高まった。